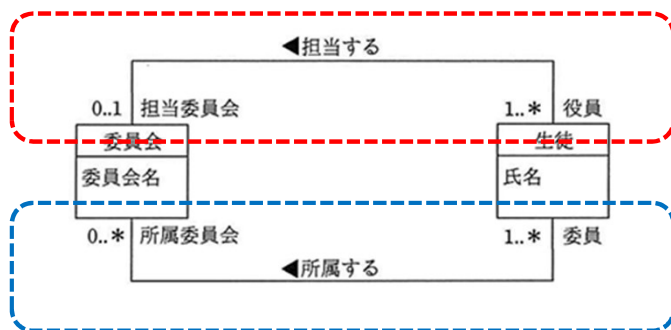


# 【クラス図から関係モデルの作成（例題 1）】

先の投稿（【E-Rモデルから関係モデルの作成（E-R図の構築から非正規形まで）】）では、概念設計におけるデータモデル（例えばE-Rモデル）から論理設計におけるデータモデル（例えば関係モデル）を導き出す方法を説明しましたが、今回は、以下の例題を用いて、概念設計（UMLのクラス図）から論理設計（関係モデル）への導出方法を説明します。別に難しいことはなく、次ページのとおり、2つのリレーション（上段と下段）それぞれE-R図を作成し、最後に合体させることで正解の「ア」になります。

問21 UML を用いて表した図のデータモデルを基にして設計したテーブルのうち、適切なものはどれか。ここで、“担当委員会 ID”と“所属委員会 ID”は“委員会 ID”を参照する外部キーである。“役員 ID”と“委員 ID”は“生徒 ID”を参照する外部キーである。実線の下線は主キー、破線の下線は外部キーを表す。



上段のリレーション

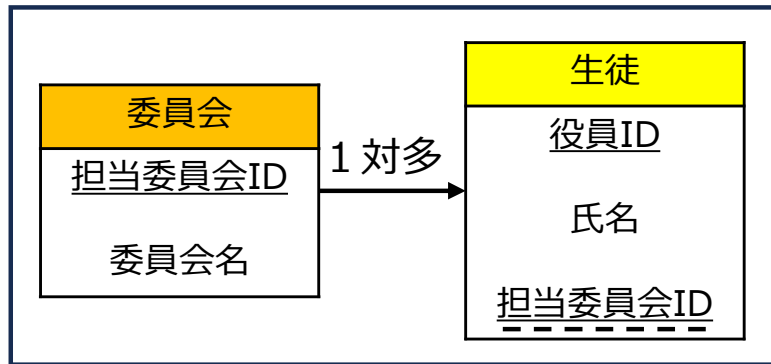
下段のリレーション

- ア 委員会（委員会 ID, 委員会名）  
所属関連（所属委員会 ID, 委員 ID）  
生徒（生徒 ID, 氏名, 担当委員会 ID）
- イ 委員会（委員会 ID, 委員会名）  
役員関連（担当委員会 ID, 役員 ID）  
生徒（生徒 ID, 氏名, 所属委員会 ID）
- ウ 委員会（委員会 ID, 委員会名, 委員 ID）  
生徒（生徒 ID, 氏名, 所属委員会 ID, 担当委員会 ID）
- エ 委員会（委員会 ID, 委員会名, 役員 ID）  
生徒（生徒 ID, 氏名, 所属委員会 ID）

本資料は正確性に欠く部分及び誤字脱字等も多いと思います。そのため、本資料に起因した損害等については、管理人として責任を負いかねますので御了承ください。

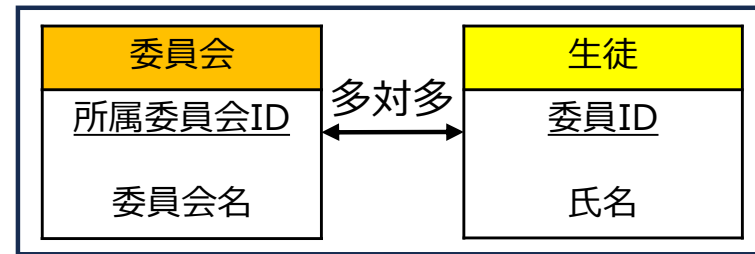
© 2025 spine-team.com

## 上段のリレーション

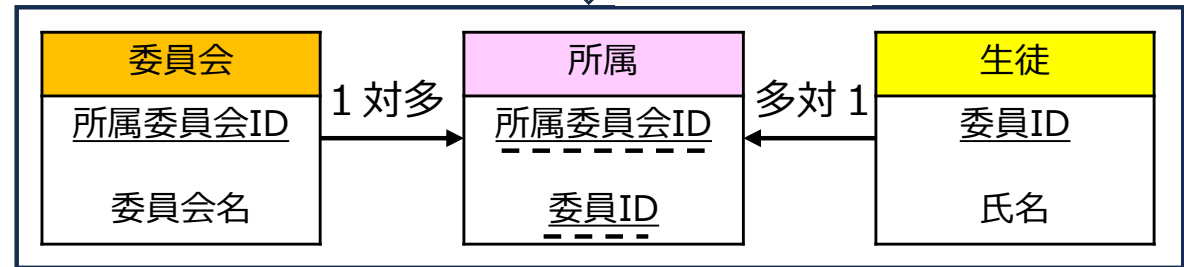


上段と下段をまとめる

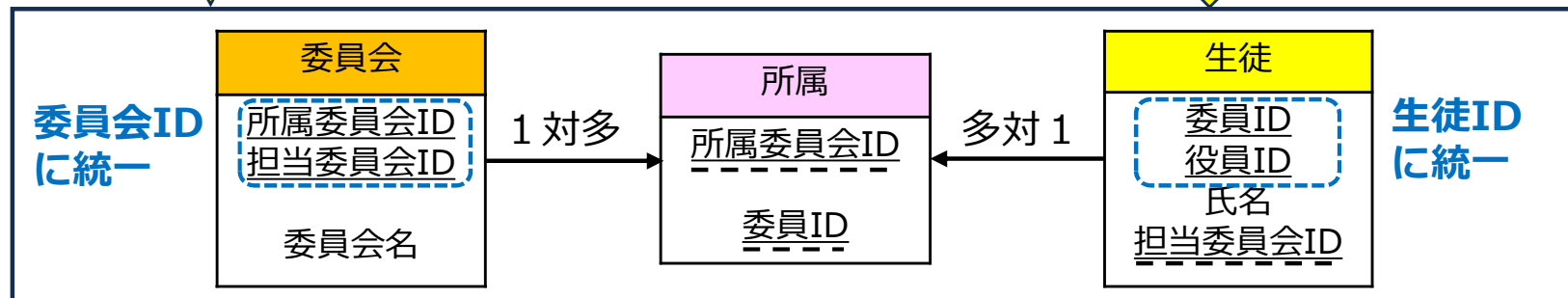
## 下段のリレーション



多対多を解消



上段と下段をまとめる



統一

選択肢「ア」になる

